

第 45 号

〒542-0072 大阪市中央区高津 2-8-10 末広ビル 502 号室
Tel(06)6214-0753 Fax(06)6214-0755



設立七十五周年 記念演奏会に向けて



一般社団法人 関西常磐津協会
理事長 常磐津都崑蔵

このたび、当協会の七十五周年にあたり、記念演奏会を主催いたします。開催の準備を進める中、常磐津都崑蔵理事長(写真)より、ご挨拶かたがた、当協会のあゆみを振り返りながら、演奏会の趣旨と内容について、お話をうかがいました。

—— 設立七十五周年記念演奏会は、当協会の大きな節目となる一大イベントになりそうですね。

都崑蔵 このたびの記念演奏会の開催にあたり、多くの皆様方にご協力を賜っておりまして、まずは心より御礼申し上げます。

関西常磐津協会は、常磐津節の伝承と保存のため、また技芸の向上はもとより、後継者の育成と常磐津節の普

及・発展を目的として、さまざまな事業を行っております。

発会当初からの一番重要な事業が、「関西常磐津協会公演会」です。近年の公演会は、正会員が年に一度、国立文楽劇場小ホールで開催しておりますが、今回は七十五周年の記念にふさわしい会場として、国立文楽劇場の大ホールを使わせていただきます。大きな会場ですが、皆様のお陰をもちまして、実現することになりました。

ちょうど今年、延享四年(一七四七)に常磐津という流派が興ってから二百七十年目という節目でもあり、身の引き締まる思いです。

関西常磐津協会 設立七十五周年記念演奏会

日時

平成 28 年 11 月 27 日(日)
午前 11 時より

場所

国立文楽劇場

舞踊

「永寿松竹梅」

「青陽の寿」

「松の羽衣」

「睦月連理戀」

「お夏狂乱(上)」

「お夏狂乱(下)」

「忍夜恋曲者」

「橋弁慶」

「薪荷雪間の市川」

素囃子

「勢獅子」

舞踊

「松の名所」

「戻橋」

「芽生三番叟」

「吉田屋」

「初恋千種の濡事 上手場」

「初恋千種の濡事 お光物狂」

「権八」

「関の扉(下)」

「乗合船恵方万歳」

「三世相錦繡文章 夢醒め」

素囃子

「三世相錦繡文章 三社祭礼」

舞踊

「子宝三番叟」

賛助出演(番組順)

花柳 勲磨

花柳 寛十郎

花柳 小三郎

花柳 芳一

花柳 禮次郎

若柳 壽延

若柳 吉蔵

—— 常磐津とともに当協会としても、七十五年という長い歴史を刻んできた訳ですね。

都岳蔵 当協会は、あの太平洋戦争が始まる前、昭和十六年二月二十二日に創立されました。翌月の三月二十六日に、第一回公演会(演奏会)が、大阪大手前会館(軍人会館)で開催されています(平成十九年一月発行の本誌二十八号に、当時のプログラム図版を掲載しておりますので、あわせてご覧下さい)。

当協会の代表者は、十五世家元常磐津文字太夫師を初代とし、昭和二十六年から常磐津文字八師(のち三世林中)、昭和三十六年から常磐津分家の常磐津文蔵師、昭和五十年から常磐津綱太夫師、平成三年から常磐津一巴太夫さんと、五代にわたって運営されてきました。二十三年という最も長い期間をつとめられたのは一巴太夫さんで、法人化にも尽力されました。

一巴太夫前理事長と私は、月一回、大阪の協会事務所で理事会があると、京阪電車で京都から大阪まで、よく一緒に過ごしていたきました。一巴太夫さんは自宅から京津線で、三条京阪で京阪電車に乗り換えられ、私は途中の祇園四条から乗り込んで一緒に、天満橋から事務所まではタクシーに乗りました。一時間ほどの道中で、協会と常磐津の将来について、二人でよく意見交換をいたしました。今では良い思い出です。

—— 前理事長の時代から引き継がれた企画の一つが、平成二十六年から三年越しの「三世相」通し上演でした。どのような

な意図で始められたのでしょうか？

都岳蔵 きっかけになったのは、平成二十五年の公演会での「油屋」の通しの成功であったと思います。「油屋」の時は、揃いの浴衣を作り、初めて浴衣を着用して公演会に臨みました。お客様にも喜んでいただき、大当たりとなりました。そこで、それなら一層のこと、常磐津屈指の大曲「三世相錦繡文章」全段の通しを、壮大な構想で三年計画でやってみましょう、と私が提案し、理事会でも賛同を得まして、実現に漕ぎ着けた次第です。

常磐津の素浄瑠璃のレパートリーの中でも、通し狂言物はたくさんありますが、出演の人数も必要なので普段はなかなか上演しにくいですし、とくに若い演奏者には未経験の演目が多いのです。しかし、この「油屋」の通しがヒントになり、「三世相」をはじめ、通し狂言物に挑戦する機運が高まってきたと思います。

—— 今回は「夢醒」と「三世相」の段とということ、いよいよ「三世相」全曲が完結しますね。

都岳蔵 はい。特に注目いただきたいのは、「三社祭」です。この段は、安政四年(一八五七)の初演時には、常磐津豊後大掾(初代)と岸沢古式部(四代目)のグループ、また、常磐津小文字太夫(四代目)と岸沢式佐(六代目)のグループ、つまり、親世代と子供世代の二つの組に分かれて、両ダテとして演奏されたそうです。

今回は、その時の語り分けを原則としてそのまま、男女の正会員に振り分けました。初演の語り分けを再現、再構成して演奏することによって、作品の本来の姿

を捉え直すといえますか、何か新しいことに気付くこともあるでしょうし、私たちにとつての、大きな呼び物になるのではと考えております。

—— 「お光物狂」で知られる「初恋千種の濡事」を、「土手場」から続けて上演するのも、近年では珍しくなりました。聴きどころを教えてください。

都岳蔵 「初恋千種の濡事」は、有名なお染久松を扱った作品で、その中の巻「お光物狂」は舞踊曲として舞踊会でもよく演奏されますが、上の巻「土手場」の方は近年では珍しい曲となりました。

中の巻のお光の悲哀の描写が名曲なのはもちろんですが、そのあと一転して善六のくだりとなります。大阪を舞台としたものらしく、チャリを効かして、とても面白いですよ。

今回は、「初恋千種の濡事」の上の巻と中の巻を男性正会員が演奏しまして、「お夏狂乱」の上・下を女流の二つのグループが演奏いたします。奇しくも、お光とお夏がテーマということで、狂乱物の競演となります。

—— 準会員・賛助会員の皆様もご出演されて、会場を盛り上げて下さいますね。

都岳蔵 当協会の会員は、常磐津を業(仕事)とする人、あるいはプロとして舞台上立つ人を「正会員」としています。そして、常磐津節を趣味とする皆様の内、芸名を取得した「名取り」の人を「準会員」としています。しかし、常磐津を職業とするか、しないかに関わらず、常磐津を愛好する気

持ちに、皆さん変わりはありません。

例年の公演会は、正会員のみで構成されますが、今回は七十五周年記念ということなので、正会員・準会員・賛助会員が合同して、賑やかに開催することといたしました。

—— 舞踊家さんにもご出演いただいて華を添えていただくそうで楽しみです。

都岳蔵 日本舞踊協会関西支部の舞踊家の方々のご協力によりまして、舞踊の演目を三つ上演いたします。鳴物さん(囃子方)にも加わっていただき、狂言さん(狂言方、舞台監督)にもお手伝いいただき、ます。昭和十六年の第一回公演会以来の大規模な、かつてない賑やかな会となるのではないのでしょうか。

その第一回の番組をあらためて見ますと、花柳芳次郎のちの花柳芳壁・花柳芳六次さんの「子宝三番叟」、若柳吉加・若柳吉晴さんの「助六」、吉村雄一さんの「ゑびらの源太」、若柳吉縁・若柳吉千世さんの「常磐の老松」とあります。

今回も記念の会ということで、たいへん豪華な顔ぶれとなります。若柳壽延御家元と若柳吉蔵御宗家の「子宝三番叟」、花柳芳一・花柳禮次郎の女流ベテランによる「松の名所」、花柳勲磨・花柳寛十郎・花柳小三郎の中堅ホープによる「永寿松竹梅」。いずれも常磐津の流儀にとりまして、第一級の祝儀曲を取り揃えました。舞踊も楽しんでいただきながら、常磐津の浄瑠璃と三味線はやっぱりいいなあ、と感じていただけましたら何よりです。

最後に、お客様へのメッセージと、演奏者一同を代表しての抱負の弁をお願いいたします。

都岳蔵 常磐津の面白さは、単に音楽的に良い声とか、きれいな音を楽しむだけではないと思うのです。常磐津は「語り物」であることから、私たち演奏者自身を、そして観客を、「想像」の世界へと誘ってくれます。そこが一番面白いところだと思います。

その「想像」は、過去のさまざまな経験をもとにして、個人個人の頭の中でつくり出されるものです。ですから、一つきりなのではなく、十人で聴けば十通りの、また、百人で聴けば百通りの世界が広がっています。

この「想像」の世界へとお誘いするお手伝いをして、少しでも面白く聴いていただくため、そして何回も聴きたいと思っていたりするために、私たちは日夜努力を続けております。

現代はどちらかというと「見る時代」となっておりますが、江戸時代の人々が楽しんできたような「聴く面白さ、楽しさ」を、皆様におかれまして、ぜひ再発見して味わっていただきたいと願っております。そのためにも、私たちへの叱咤激励を、何とぞよろしくお願いいたします。

会員一同、大いに張り切っております。皆様におかれまして、賑々しくご来場くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



◆ 協会だより ◆

活動記録（平成28年前期）

協会

◆ 新年会

平成28年2月4日（木）、京都祇園の竹香にて、賑々しく新年を祝いました。



◆ 常磐津塚法要

平成28年4月4日（月）正午より
大阪・寂光寺（江口の君堂）

当協会および常磐津節のために尽力された先人の業績を偲び顕彰するための恒例事業。

◆ 第四回 定時社員総会

平成28年6月20日（月）13時30分

大阪市立中央会館会議室

各種の事業内容の報告のほか、11月の設立七十五周年記念演奏会の一部の演奏順を抽選で決定しました。

◆ 第一回常磐津研修発表会

平成28年7月31日（日）午後2時
大阪市立中央会館

「廓八景」 弾語り 三之祐

「松島」 浄三賀太夫、三三之祐

「三ツ面子守」 弾語り 三代太夫

「将門」 浄巴松太夫、三若音太夫

「屋敷娘」 弾語り 亜香音

「戻橋」 弾語り 巴松太夫

常磐津節を次世代につなぐため、月に一回、正会員有志が協会事務所に集まり、理事長のもとで実技研修を重ねています。その成果の第一回発表会を開催しました。



◆ とぎわづカルチャー

常磐津節愛好家を増やし裾野を広げるための常磐津教室事業。協会事務所にて講習。担当講師は綱男理事。

会 員

◆ アーラ常磐津教室おさらい

平成28年1月30日（土）13時30分
岐阜県・可児市文化創造センター（アーラ小劇場）

（公財）可児市文化芸術振興財団の主催。巴瑠幸太夫講師による一年間の指導のまとめとして、常磐津教室の受講生十二名が、浄瑠璃・三味線の稽古の成果を披露しました。若音太夫・三之祐の賛助出演。

◆ 重要無形文化財常磐津節第一回伝承事業成果発表会（常磐津節保存会主催）

平成28年2月1日（月）午後2時より
京都芸術センター講堂

「常磐の老松」浄都代太夫・若音太夫・一男太夫、三都史・三之祐。

「地蔵の道行」浄一佐太夫・都代太夫・若音太夫・一男太夫、三都岳蔵・都史・三之祐。

会長の常磐津文字太夫御家元の挨拶、竹内道敬氏の解説。

◆ 七面山本殿荘厳・格天井修復報恩事業 落慶法要 常磐津舞踊奉納

平成28年5月18日（水）

山梨県身延町・七面山敬慎院宝珠殿 都代太夫作曲の創作歌舞伎舞踊「七面山龍神縁起」常磐津「日蓮記」よりが演奏されました。浄都代太夫・秀三太夫、三美寿郎・三之祐、舞踊 花柳琴臣・藤間眞白。囃子方も加わった本格的な舞台。会場は片道四時間の登山を要する秘境でしたが、法要に参加された信心深い皆様方に大きな感銘を与えました。

これから(平成28年後期)

協会

◆関西常磐津協会

設立七十五周年記念演奏会
平成28年11月27日(日) 午前11時〜
大阪・国立文楽劇場大ホール
前掲記事をご参照ください。

会員

◆巴瑠幸太夫門弟夏のお浚い会

平成28年8月20日(土)
京都・祇園甲部歌舞練場 祇園コーナー
全二十六曲。小東矢・三都貴・若音太夫の賛助出演。

◆長唄喜楽会 番外篇

平成28年10月3日(月) 午後7時〜
京都芸術センター大広間
「瓢箪鯨」「晒女」を長唄との掛合で。
都代太夫・若音太夫、都史・三之祐。
長唄は今藤政之祐、杵屋浩基ほか。
長唄喜楽会(杵屋浩基師)の主催、京都芸術センターの共催、京都芸大伝音センターの協力。

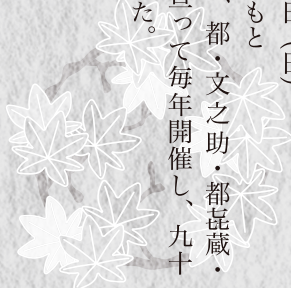


◆常磐津協会創立七十周年演奏会

平成28年5月29日(日) 12時より
東京・国立小劇場
「三世相錦繡文章」全段ほか。関西からは、都史・若音太夫が出演。

◆常磐津都会九十五年

平成28年7月3日(日)
京都・西石垣ちもと
大正十年から、都・文之助・都崑蔵・都史の四代に亘って毎年開催し、九十五年を迎えました。



お祝い

叙勲

常磐津小由太夫師

平成28年春の叙勲において、旭日双光章を受章されました。写真は、5月12日、東京・国立劇場での伝達式の折にロビーにて。



受賞

常磐津都崑蔵師

平成27年度京都市芸術振興賞を受賞され、28年2月16日に京都市役所にて、京都市長より表彰を受けました。

感謝状

常磐津小欣矢師

平成28年2月、愛媛県知事より、伝統文化継承に長年にわたり積極的に取り組んだことにより感謝状が授与されました。



〈退会〉

正会員

常磐津美佐華
豊 後半寿美

準会員

常磐津 都貴太夫(都崑蔵社中・死去)
常磐津 巴つ花(二巴太夫社中)
常磐津 巴瑠慶(二巴太夫社中)
常磐津 巴雪(一巴太夫社中)
常磐津 文字花子(都崑蔵社中・死去)

賛助会員

長 吉紗代子(美佐季社中)

〈変更〉

正会員

常磐津 三都秀(準会員より正会員へ)
常磐津 小杜珠(休会より復帰)
常磐津 三由花(休会)

編集後記

来たる11月の記念演奏会の情報を、なるべく詳しくお伝えするために、発行が遅くなりました。お詫び申し上げます。
(都代太夫・若音太夫)

会員異動

〈入会〉

賛助会員

向平友希(美佐季社中)
日下薫(美佐季社中)
黒田望(巴松太夫社中)

ヤチーカル生募集!

- 内容 浄瑠璃と三味線の実技
- 場所 協会事務所(国立文楽劇場東隣)
- 期間 平成29年3月まで
- 時間帯 要相談(月2~3回)
- 受講料 無料

お申し込み・お問い合わせは
常磐津綱男(担当理事)まで

TEL:090-8200-6191 FAX:06-6214-0755
Eメール:tuna-03@world.ocn.ne.jp